

～海外派遣者からのレポート～

2007年6月 中国吉林省東北師範大学派遣者 北村裕司

現在、中国製品について、日本のメディアでは、いろいろな報道がされているようです。中国での3カ月の経験で、報道されている内容について、別に驚かなくなっています。今回は、驚かなくなった原因の一つである中国病院事情について報告します。

4月下旬、私の家族が、長春市に到着しました。

<写真1>は、ちょうど4月上旬あたりの黄砂の状況です。

見てのとおり、明らかに空が、黄色くなっています。

長旅の影響もあったとは思いますが、家族が一人一人バタバタと倒れていきました。

中国の環境が、長男長女に少なからず影響を与えたことは、間違いありません。



<写真1>

我々は、友人に通訳をしてもらい、長春児童病院に行きました。

初めての海外で病院は、我々にとって未知の世界ですべてが初めてでした。

手続きは、以下のとおりです。

1. はじめに申し込みをして、お金を払う。
2. 風邪なので内科に行き、そこで、並んで待つ。結構待ち時間は短い。しかし、並んでいても横から割り込まれるため、順番が回ってこない。
3. 内科で診察後、注射が必要な子どもは、アレルギーチェックをするために注射室へ。その前に当然お金を払い手続きをする。
4. アレルギーチェックは、約20分、問題なければ、その後また、内科で再検診。
5. お医者さんから、注射や点滴の調合を指示した紙を渡してもらい、また、当然先にお金を払いに行く。
6. 点滴の場合、院内の薬局で点滴に必要な薬を数種類もらう(箱や袋に入ったままもらう)。点滴室で、薬を看護婦に渡し、調合してもらう。
7. その後、点滴をしてもらう。看護師は、ハサミのような道具を使い、針を差し込む。
8. すべてが終わると、病院外の薬局で薬をもらう。病院内でも薬をもらうことが出来るが、外の薬局のほうが安いとお医者さんに勧められ、外で購入。

なお、こちらの治療は、主に、点滴です。

別の病院のお医者さんから聞いたところ、中国の医療は、以前、注射などの薬に頼りすぎ、個人の免疫が落ちてしまった。

そのため、点滴で、薬を薄めて、体内に注入するそうです。

長春児童病院は、点滴室があり、だいたい3,40人くらいが、点滴を受けていました。もっとも驚いたことに、こちらで一歳未満の子どもは、頭に点滴されます。<写真2>



<写真2>

さすがに首にされることはないようですが、ものが分かるようになった長男は、この光景を見て恐れて泣いていました。

ちなみに、数日後、長女が頭に点滴をされるとは、このとき想像をしておりませんでした。

中国の注射針は、日本で使う針より、少々太いらしく、また、看護婦の能力次第で、指される場所が、違いました。

ちなみに、長男は右手の甲、長女は、右手の甲、左手の甲、そして頭でした。

私の感想として、一つ目は、お金を払う手続きが多すぎる。

日本のように最後にお金を払う手続きだと、以前は、払う前に逃げる人間がいたためらしい。

だから、お金がかかる点滴などの処方前にお金を払います。

ですが、なれない我々には、病人を抱え、かなり大変でした。

二つ目は、衛生状況。お世辞にもきれいとは言えませんでした。

看護婦等医療関係者は、かなり衛生に気を遣っていましたが、患者の親族の中には、ゴミ箱で、子どもに大、小便をさせるなど衛生に無関心で、何が発生しているのか、わかりません。

最後に医療費です。

風邪の場合、一回あたりの医療費は、総額約120元(約1500円)。

内訳は、申込み7元、アレルギーチェック2.5元、薬10元、点滴用薬100元強。

一般的な中国人の給料から考えて、かなり高い。

私の横で薬の手続きを待っていた人は、一日400元の薬を飲まされていると言っていました。

一般人の給料が月1,500元から2,000元ぐらいだから、かなり高額であることが分かります。

そう考えたら、日本の医療制度は、整っています。

保険制度のお陰で個人負担はかなり低い。

ましてや、5才未満に特別医療費は、1回500円。

日本の平均月収から考えてもかなり安い。

相対的な視点で日本が良いというのは、結論にはなりません、弱者の立場にたっているのは、間違いないことがわかりました。